水産試験場 FISHERIES EXPERIMENT
No.808
2026

日向灘沿岸の水産資源の評価結果について

―資源部―

宮崎県では、本県沿岸の水産資源の適切な管理を目的として毎年資源評価を行っており、評価結果を宮崎県資源評価委員会（以下「委員会」という）に諮っています。

令和８年９月９日に開催された第 16 回委員会にて、10 魚種が評価されました。ここでは、毎年評価している「アマダイ類」、「イセエビ」、「カサゴ」、「マダイ」、「ヒラメ」の５種の評価結果の概要を示します。各種の詳細は、宮崎県水産試験場 HP（http://www.mz-suishi.jp/）に掲載しております。

表１ 第 16 回資源評価委員会の結果

魚種名		2026年度評価
1	アマダイ類	中位 ・ 増加
2	カサゴ	低位 ・ 横ばい
3	ヒラメ	低位 ・ 減少
4	イセエビ	中位 ・ 横ばい
5	マダイ	高位 ・ 増加
6	コウイカ類	高位 ・ 増加
7	クルマエビ	低位 ・ 横ばい
8	アオリイカ	高位 ・ 増加
9	アオメエソ類	低位 ・ 減少
10	シラス	低位 ・ 減少
計10魚種		

高位、中位、低位は資源水準。増加、横ばい、減少は直近５カ年の資源の動向。

１ アマダイ類



写真１ 水揚げされたアカアマダイ

【2025年の漁獲状況】
漁獲量 ： 17.5 トン
漁獲金額 ： 34 百万円
平均単価 ： 1,949 円/kg
【評価結果】
資源の水準 ：「 中位 」
資源の動向 ：「 増加 」

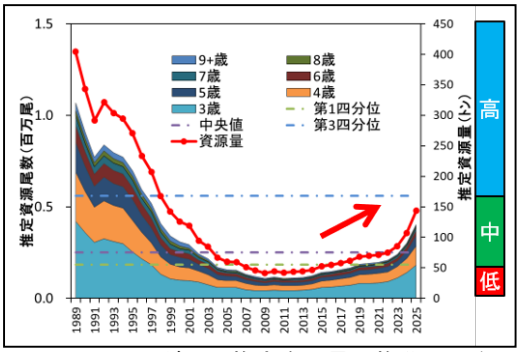

図１ アカアマダイの推定資源量の推移と動向

【委員会の提言】
・近年は漁獲圧の低下と再生産成功率の向上により資源量が増加傾向にあり、資源管理協定及び資源回復計画の効果が現れていると考える
・資源が回復傾向にある一方で、漁獲係数は低下していることから、漁獲制限の緩和に取り組む余地があると考えるが、過去に過剰な漁獲により資源が減少した経緯があることから、慎重に行う必要がある

２ イセエビ



写真２ 水揚げされたイセエビ

【2025年の漁獲状況】
漁獲量 ： 65.4 トン
漁獲金額 ： 345 百万円
平均単価 ： 5,279 円/kg
【評価結果】
資源の水準 ：「 中位 」
資源の動向 ：「 横ばい 」

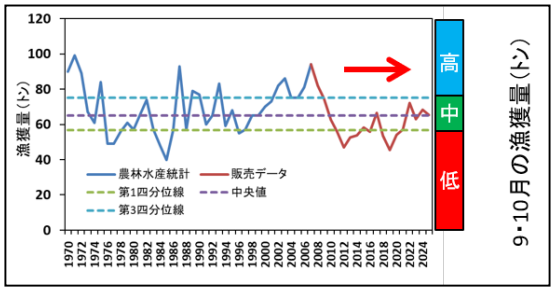

図２ イセエビの漁獲量の推移と動向

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.

【委員会の提言】

・本種は初期生活期に沖合域から本県沿岸域に加入し、着底後は大きな移動をしないと考えられることから、加入量・生残率向上のための取組と小型魚保護の取組が重要である

・一部地域で取り組まれている藻場の保全及び稚エビ着生促進構造物等の設置が、その地区の漁獲量維持に貢献している可能性があり、継続的な活動及び資源管理協定の管理措置継続が求められる

3 カサゴ



写真 3 水揚げされたカサゴ

【2025年の漁獲状況】

漁獲量	：	6.3	トン
漁獲金額	：	5	百万円
平均単価	：	860	円/kg

【評価結果】

資源の水準 ：「 低位 」

資源の動向 ：「 横ばい 」

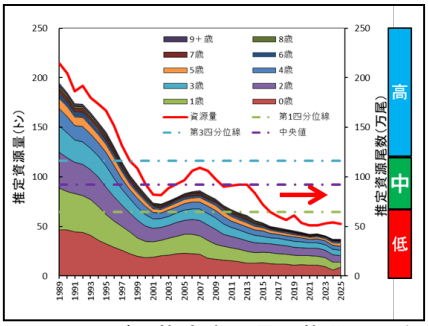

図 3 カサゴの推定資源量の推移と動向

【委員会の提言】

・近年、資源尾数・資源量は横ばいで推移していると考えられ、現行の資源管理措置を継続するとともに、漁業者の減少による漁獲量の変化が評価に影響を与えている可能性があるため、漁業実態の把握が必要である

4 マダイ



写真 4 水揚げされたマダイ

【2025年の漁獲状況】

漁獲量	：	80.2	トン
漁獲金額	：	61	百万円
平均単価	：	762	円/kg

【評価結果】

資源の水準 ：「 高位 」

資源の動向 ：「 増加 」

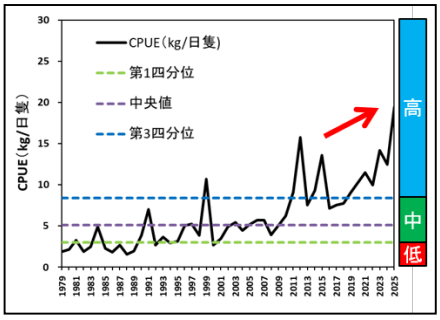

図 4 マダイの大型定置網 CPUE の推移と動向

【委員会の提言】

・本県では他県海域から移入してきた 3 歳以上の資源と本県地先で生まれ育った地先発生資源を併せて利用していると推測され、地先発生資源である若齢魚の漁獲尾数は 2021 年以降増加の兆しが見えており、さらに肥満度も回復傾向にあることから、本県沿岸におけるマダイの初期生育環境が改善している可能性がある

・本県が属する太平洋南部海域の評価は中位・増加だが、漁獲圧は低いと推測されているため、広域的な資源状況に留意した資源の積極的利用が可能と考える。併せて、初期生育環境改善の好機を逃さず種苗放流を再開するとともに、アマモ場等の生育環境保全を進めることで、地先発生資源の増大を図ることも有効と考える

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.

5 ヒラメ

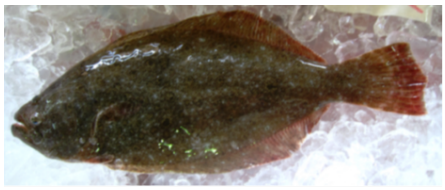

写真 5 水揚げされたヒラメ

【2025年の漁獲状況】

漁獲量	：	5.2	㌧
漁獲金額	：	9	百万円
平均単価	：	1,810	円/kg

【評価結果】

資源の水準 ：「 低位 」

資源の動向 ：「 減少 」

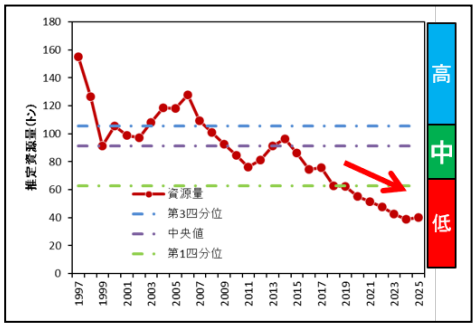

図 5 ヒラメの推定資源量の推移と動向

【委員会の提言】

・本県では他県海域から移入してきた 3 歳以上の資源と本県地先で生まれ育った地先発生資源を併せて利用していると推測され、地先発生資源である若齢魚の漁獲尾数は 2021 年以降増加の兆しが見えており、さらに肥満度も回復傾向にあることから、本県沿岸におけるマダイの初期生育環境が改善している可能性がある

・本県が属する太平洋南部海域の評価は中位・増加だが、漁獲圧は低いと推測されているため、広域的な資源状況に留意した資源の積極的利用が可能と考える。併せて、初期生育環境改善の好機を逃さず種苗放流を再開するとともに、アマモ場等の生育環境保全を進めることで、地先発生資源の増大を図ることも有効と考える

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.